

風俗文選
賦譜
三

5
4470
3

5
4470
3

正德



昭和九年
十月一日
購求

纂虫説

素堂

柴賣説

九北

閉關説

芭蕉

師説

許六

名阿段説

許六

出女説

木導

雜説

不知作者

愛釋説

万子

卍字藤説

朱廼

草薺説

露川

山芋説

吾仲

朝霄惑説

毛純

風俗文選卷之四

五老井 許六選

○論類

纂虫説

素堂

○みぢりし。夢のおほいなるをあらわぬ。ちとくんと
なり。考ふ。ゆが。とれ。つ。に。ゆ。く。鬼の子なり。うん。
清女が。夢。み。さ。う。なり。や。う。鬼。なり。と。替。受。を。受。く。
て。舞。あ。つ。は。き。む。ひ。乃。舞。なり。ん。り。
この虫。お。乃。お。け。い。なり。て。か。い。を。能。あ。を。あ。け。
ぬ。松。ま。を。乃。あ。や。る。る。ぬ。よ。筆。中。は。花。野。を。な。ふ。素。
子。と。縁。を。む。し。わ。か。ら。う。て。賤。の。子。と。死。す。
兄。の。ひ。し。ぎ。を。能。う。て。解。な。る。を。あ。け。し。胡。蝶。と。

しあが
し
か。
さろ
かなるを^{アヒ}構
うぐ
に一滴を^{ヒヤ}

みぢり／＼がまゆへに袖ゆゑ／＼む。田舎の爲

骸^{カラ}も
形^カも
たゞし
なり。

從容侵雨

飄然乘風

栖鶴莫啄

家童禁叢

天許作隱

我憐称翁

脱簑衣去

誰識其終

柴賣説

凡兆

（柴賣おまうけり。小野。細河。くま。る。隆。ある。夫。賣。
小原。ら。花。を。梅。り。細。く。わ。え。わ。り。深。い。葉。を。枝。が。電。は
折。く。く。とい。つ。る。ま。め。る。あ。く。わ。お。ま。を。な。し。ん。が。の。泰
り。毛。女。が。買。り。も。似。ど。河。陽。の。焦。子。が。仁。も。あ。り。と。唯。世。は
ま。り。り。が。め。り。て。女。を。取。り。わ。く。く。を。神。を。賣。り。ま。ら。ん。入
く。く。神。を。推。る。取。り。り。小。野。を。も。思。く。そ。く。泥。も。深

ま。と。も。白。く。さ。び。ぐ。ま。建。れ。門。院。乃。女。房。阿。波。乃。典。傳。の。局
た。い。い。人。乃。名。お。ある。や。あ。け。さ。ひ。く。く。と。香。け。る。お
鈴。と。は。く。い。格。り。て。二。布。を。あ。り。り。何。き。も。は。い。
志。あ。さ。は。い。日。は。あ。ま。ら。う。ひ。く。ま。い。ひ。く。う。り。め。
む。ず。び。さ。も。幾。男。乃。ん。状。り。あ。い。ま。ら。躑。躑。山。を。氣
あ。き。も。虎。杖。を。も。づ。り。さ。ん。で。の。ひ。ば。く。な。い。ぬ
乃。乃。は。ど。一。里。二。里。と。ひ。く。く。さ。ま。あ。り。り。て。肩。り。や
業。も。な。く。あ。の。後。も。を。睡。を。か。き。び。漸。々。の。所。に
ち。い。び。さ。く。さ。ゆ。り。り。も。ち。き。り。て。大。話。小。話。と。い。ふ
或。は。お。話。り。て。内。を。と。れ。あ。る。ひ。ら。は。に。乃。市。は。あ。を
志。あ。く。く。さ。け。の。首。を。く。り。月。乃。々。を。つ。き。よ。お。く。ま

子、さういふからず。あつてゐる。昔より風雅の傷
 師人おはよ中。ありのおの傷を。家祇に連歌を
 むすね。先師とせむ弱き。なんにもまふ被て。ゆえに
 終る。その内業あるの中。まふ。一歩。いふ。
 或乃れ肉を身の上被き。ふ被く。微油の傷を
 こころ被く。二平余子^{ナカ}中を流り。中を流り。花
 院のをみ。風雅の面世。もふ被て。なほ桃の花
 の開け。目状。いふ。其角を。は。もふ。ま考ハ。理
 も。涼光。いふ。この志。これ。も。傷。雲河ハ。
 秘傳の教。も。あ。中。東邦。あ。風雅のつ。も。
 傷。千那。由。風月^{フグツ}の情。こ。も。傷。嵐。

通倉乃月よきふきは妙々松竹乃閑閑にそと
仕玉を模よりまじ。惟我のこころはなかなかに
梅の秋の小傷を。許さるゝ文景の文も傷む。さ
芭蕉流の傷をくもわあまひし口流をきよと人も
あるなり。雪と内なる傷を。楊柳を來しそふゆ人
笑ふそふゆものあり。あうふ小傷をくもわ

愛梅說

方子

全篇說梅而無梅字。
終句以「一梅字」結之。

〇解^{ゲン}原楚^ジ辭^ジよりとまじ。黄^{ワウ}家宰^{サエ}府^フも招^{ホウ}え。西^{セイ}の對^{タイ}

獲麟解スリノカイノチ

許六

長雪隱解ナガセツイン

許六

數醫者解ヤブイサヤノ

文村

解類

○解類

獲麟解

許六

五老井 許六選

○魯乃哀公十四年。西へん。初、麟と云ふ。孔子大きに
カゲききいて。春、好むと云ひ。史、麟といふもの。初めて。孔子
をんそんし。のふで。いふ。一。氣ハ思ふ。一。て。火。龍のふ
と。きけ。て。今。を。き。し。し。麟ハ。西。靈。乃。随。し。て。初。ある
を。と。ふ。と。ふ。う。何。と。い。ふ。と。ふ。も。い。ふ。う。一。孔子。を。い。ふ。
初。よ。う。が。り。一。や。牛。馬。の。生。れ。て。そ。こ。に。つ。て。や。あ。り
を。い。ふ。初。も。又。い。ふ。一。麟。と。い。ふ。道。ち。こ。な。つ。て。や。あ。り。初。を。
を。道。と。し。て。初。の。と。あ。り。て。初。人。の。上。よ。う。な。ふ。み。一。や。初。

世に回るとはすくねくも。さねばを風とあうい。
 其業を習ふま。津く酒くよくびる。やぶとん
 とい。病家も信とす。茶力も飛がでく。そねり物
 換^{カハリ}替^{オシ}後^{ノチ}ゆく。今ハ長物も古物となく。あまハ
 益^{タリ}とりは。田^タの教^{ノチ}とてんろふ。せん門^{カド}は。座^ザ換^{カハリ}の
 智^チを^ヲとけう。竹^{タケ}枯^{カラシ}子^シは。茶^チは茶^チ乃^ノ看^{カン}後^{ノチ}とくけく。
 又^{マタ}子の傳^{デン}も。すハ元^{ゲン}く。そ^ソ田^タさりの茶^チれをねとて。
 茶^{チャ}店^{テン}よりあう。物^{モノ}中^{ナカ}ハ暖^{ノリ}屋^ヤの内^{ウチ}は。茶^チて。女^メ房^フの教^{ノチ}
 とつひ。町^{チヨウ}役^{ヤク}ハ。茶^チ合^カを療^{リョウ}。茶^チ代^{ダイ}よりでく。河^カ原^{ハラ}は
 乃^ノ才^{サイ}。牛^ウ膝^{ヒザ}ハ。牛^ウ乃^ノ膝^{ヒザ}を。鶴^{カク}丸^{マル}と。鶴^{カク}の志^シ
 人をさぐと。茶^チれも。茶^チ力^{リキ}は。かきて。胃^イの氣^キより。元^{ゲン}氣^キ

毒へく。果て何ぐ村の片場の明をすい。家佛は
 のりとして、神を押さぬ説もいふ。と云う。今や
 こゝろ妙を失ひなご。家通め、成る所。今や
 師・妙・後ちアめん。家の中もおけりなり。
 船衣ユも茶衣モウのきこその拂カフも、ん作モノまねど。
 佛法よハ素毒の氣遣ツギあらば、えんすべし。
 そゝ救醫者乃中ぶらふ。又おろ竹の子も。花と
 なりむじろ。うほささ神。

五卷上

五卷上

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Chinese or Japanese calligraphy, spanning across the right page.

Large, bold, stylized characters, possibly representing a specific name or title, enclosed within a rectangular border.

五卷上

五卷上

乃傍何ぐハ。勇士菅原氏曲翠の作又ハなんぢ也
 を。今ハ八年むらび。び。ハなめて。正ハ知徳を人の
 名とのとあま。又市中とるす。十とむ。わ
 ー。とみす。や。ち。わ。ハ。義徳乃みの。は。あ。ひ
 暢ハナ家と。能。と。奥羽ウチウ家。海。の。界。と。日。面。を。こ
 ー。こ。す。か。こ。あ。や。こ。う。こ。ハ。北海乃。義。徳。と。さ。び。を
 と。破。つ。こ。と。義。徳。水。の。波。と。た。よ。い。為。の。海。軍。乃
 ち。新。と。す。こ。す。こ。す。が。れ。一。半。の。法。を。あ。り。こ。え
 新。海。軍。あ。る。も。先。頃。の。法。を。さ。う。こ。と。や。月。を
 こ。と。先。い。こ。と。や。初。入。こ。ハ。乃。や。ん。せ。と。さ。あ。ひ
 こ。と。ぬ。さ。ひ。こ。と。ハ。乃。名。あ。も。さ。う。こ。と。づ。ー。咲。あ。て。

山。後。主。よ。か。い。く。付。る。志。ら。く。こ。う。や。と。定。う。る。
 乃。は。え。ある。城。あ。つ。こ。ハ。は。い。こ。と。も。こ。と。ハ。な。ん。ぢ
 海。と。奥。ト。て。魂。是。楚。東南。と。う。こ。と。身。ハ。津。海。に
 座。と。立。こ。と。東。申。と。う。こ。と。ハ。今。家。と。は。何。と。し
 陽。り。南。軍。軍。さ。よ。う。あ。り。ー。北。凡。海。を。渡。ー。て。陳。
 目。枝。の。山。は。良。の。も。根。と。わ。幸。満。の。松。と。あ。こ。た。え。
 陳。あ。る。も。橋。何。と。ま。物。こ。う。こ。と。ハ。あ。あ。わ。せ。と。も。わ。か。い
 本。雅。の。夢。林。原。の。小。田。と。う。こ。と。同。と。る。こ。と。夢。を。ぬ。く。文。書
 新。と。よ。水。鶴。の。そ。う。こ。と。も。夢。を。京。都。と。う。こ。と。ハ。あ。う。こ。と。し
 こ。う。う。わ。ー。中。も。こ。と。正。心。ハ。さ。あ。れ。付。よ。か。う。い。て。あ
 花。や。う。こ。と。さ。よ。う。こ。と。も。あ。り。い。て。う。秋。田。と。う。こ。と。ハ。古

人とのぞく。さうが。嶺。千丈が家。袴腰といふ山あり。
黒ばの里いといふ山あり。細代もよどといふ山あり。
むむ。あまふ集乃。染あり。むむ。袴腰といふ山あり。
むむ。あまふ集乃。染あり。むむ。袴腰といふ山あり。
むむ。あまふ集乃。染あり。むむ。袴腰といふ山あり。
むむ。あまふ集乃。染あり。むむ。袴腰といふ山あり。
むむ。あまふ集乃。染あり。むむ。袴腰といふ山あり。
むむ。あまふ集乃。染あり。むむ。袴腰といふ山あり。
むむ。あまふ集乃。染あり。むむ。袴腰といふ山あり。
むむ。あまふ集乃。染あり。むむ。袴腰といふ山あり。

と傷。夜のねらさむ。さうが。嶺。千丈が家。袴腰といふ山あり。
さうが。嶺。千丈が家。袴腰といふ山あり。細代もよどといふ山あり。
さうが。嶺。千丈が家。袴腰といふ山あり。細代もよどといふ山あり。
さうが。嶺。千丈が家。袴腰といふ山あり。細代もよどといふ山あり。
さうが。嶺。千丈が家。袴腰といふ山あり。細代もよどといふ山あり。
さうが。嶺。千丈が家。袴腰といふ山あり。細代もよどといふ山あり。
さうが。嶺。千丈が家。袴腰といふ山あり。細代もよどといふ山あり。
さうが。嶺。千丈が家。袴腰といふ山あり。細代もよどといふ山あり。
さうが。嶺。千丈が家。袴腰といふ山あり。細代もよどといふ山あり。
さうが。嶺。千丈が家。袴腰といふ山あり。細代もよどといふ山あり。

取て之園^{ミヤ}内^{ミヤ}は是地とてつく。ぐい^{ミヤ}てひ^{ミヤ}ふ
家寂をぬ^{ミヤ}。山^{ミヤ}野^{ミヤ}は跡をかく^{ミヤ}い^{ミヤ}とあ^{ミヤ}る^{ミヤ}屋
病^{ミヤ}人^{ミヤ}は倦^{ミヤ}ぐ世をい^{ミヤ}い^{ミヤ}人^{ミヤ}は似^{ミヤ}わ^{ミヤ}は^{ミヤ}く
月^{ミヤ}乃^{ミヤ}病^{ミヤ}く^{ミヤ}。松^{ミヤ}乃^{ミヤ}の^{ミヤ}神^{ミヤ}を^{ミヤ}お^{ミヤ}よ^{ミヤ}あ^{ミヤ}時^{ミヤ}は
友^{ミヤ}今^{ミヤ}地^{ミヤ}を^{ミヤ}う^{ミヤ}や^{ミヤ}い^{ミヤ}佛^{ミヤ}離^{ミヤ}祖^{ミヤ}家^{ミヤ}乃^{ミヤ}麻^{ミヤ}く^{ミヤ}
む^{ミヤ}と^{ミヤ}い^{ミヤ}あ^{ミヤ}り^{ミヤ}な^{ミヤ}い^{ミヤ}る^{ミヤ}と^{ミヤ}せ^{ミヤ}ん^{ミヤ}た^{ミヤ}る^{ミヤ}は^{ミヤ}を^{ミヤ}
か^{ミヤ}て^{ミヤ}ま^{ミヤ}く^{ミヤ}を^{ミヤ}生^{ミヤ}涯^{ミヤ}の^{ミヤ}計^{ミヤ}と^{ミヤ}い^{ミヤ}あ^{ミヤ}神^{ミヤ}は^{ミヤ}は^{ミヤ}は^{ミヤ}
世^{ミヤ}乃^{ミヤ}で^{ミヤ}い^{ミヤ}一^{ミヤ}乃^{ミヤ}つ^{ミヤ}る^{ミヤ}。樂^{ミヤ}天^{ミヤ}は^{ミヤ}み^{ミヤ}腹^{ミヤ}の^{ミヤ}神^{ミヤ}と^{ミヤ}や^{ミヤ}あ^{ミヤ}
老^{ミヤ}乃^{ミヤ}神^{ミヤ}く^{ミヤ}。賢^{ミヤ}乃^{ミヤ}又^{ミヤ}世^{ミヤ}乃^{ミヤ}の^{ミヤ}い^{ミヤ}く^{ミヤ}さ^{ミヤ}る^{ミヤ}も^{ミヤ}わ^{ミヤ}つ^{ミヤ}
神^{ミヤ}乃^{ミヤ}神^{ミヤ}く^{ミヤ}も^{ミヤ}や^{ミヤ}と^{ミヤ}お^{ミヤ}い^{ミヤ}神^{ミヤ}く^{ミヤ}あ^{ミヤ}ね^{ミヤ}。
先^{ミヤ}乃^{ミヤ}の^{ミヤ}む^{ミヤ}權^{ミヤ}の^{ミヤ}も^{ミヤ}あ^{ミヤ}り^{ミヤ}あ^{ミヤ}ま^{ミヤ}

十八樓記

芭蕉翁

ひ^{ミヤ}乃^{ミヤ}の^{ミヤ}あ^{ミヤ}く^{ミヤ}川^{ミヤ}は^{ミヤ}神^{ミヤ}を^{ミヤ}て^{ミヤ}あ^{ミヤ}神^{ミヤ}ある^{ミヤ}あ^{ミヤ}く^{ミヤ}を^{ミヤ}か^{ミヤ}る^{ミヤ}
矢^{ミヤ}と^{ミヤ}い^{ミヤ}福^{ミヤ}乃^{ミヤ}山^{ミヤ}後^{ミヤ}は^{ミヤ}さ^{ミヤ}く^{ミヤ}。乱^{ミヤ}乃^{ミヤ}は^{ミヤ}た^{ミヤ}か^{ミヤ}る^{ミヤ}や^{ミヤ}く^{ミヤ}。
ち^{ミヤ}く^{ミヤ}ら^{ミヤ}次^{ミヤ}遠^{ミヤ}く^{ミヤ}も^{ミヤ}田^{ミヤ}中^{ミヤ}の^{ミヤ}も^{ミヤ}は^{ミヤ}秋^{ミヤ}乃^{ミヤ}一^{ミヤ}む^{ミヤ}く^{ミヤ}は^{ミヤ}か^{ミヤ}ら^{ミヤ}神^{ミヤ}て^{ミヤ}
春^{ミヤ}乃^{ミヤ}さ^{ミヤ}ふ^{ミヤ}氏^{ミヤ}家^{ミヤ}乃^{ミヤ}乃^{ミヤ}か^{ミヤ}と^{ミヤ}み^{ミヤ}の^{ミヤ}み^{ミヤ}ど^{ミヤ}わ^{ミヤ}も^{ミヤ}源^{ミヤ}一^{ミヤ}曝^{ミヤ}布^{ミヤ}
あ^{ミヤ}く^{ミヤ}は^{ミヤ}い^{ミヤ}く^{ミヤ}て^{ミヤ}た^{ミヤ}は^{ミヤ}後^{ミヤ}一^{ミヤ}船^{ミヤ}乃^{ミヤ}里^{ミヤ}人^{ミヤ}乃^{ミヤ}く^{ミヤ}い^{ミヤ}さ^{ミヤ}げ^{ミヤ}く^{ミヤ}。
漁^{ミヤ}村^{ミヤ}乃^{ミヤ}を^{ミヤ}か^{ミヤ}く^{ミヤ}て^{ミヤ}細^{ミヤ}を^{ミヤ}ひ^{ミヤ}釣^{ミヤ}を^{ミヤ}さ^{ミヤ}る^{ミヤ}も^{ミヤ}あ^{ミヤ}る^{ミヤ}さ^{ミヤ}る^{ミヤ}く^{ミヤ}。
も^{ミヤ}さ^{ミヤ}く^{ミヤ}は^{ミヤ}楼^{ミヤ}を^{ミヤ}い^{ミヤ}る^{ミヤ}は^{ミヤ}地^{ミヤ}乃^{ミヤ}。善^{ミヤ}乃^{ミヤ}い^{ミヤ}は^{ミヤ}甚^{ミヤ}な^{ミヤ}り^{ミヤ}も^{ミヤ}さ^{ミヤ}る^{ミヤ}
む^{ミヤ}り^{ミヤ}。自^{ミヤ}乃^{ミヤ}の^{ミヤ}神^{ミヤ}も^{ミヤ}月^{ミヤ}乃^{ミヤ}か^{ミヤ}り^{ミヤ}く^{ミヤ}。波^{ミヤ}乃^{ミヤ}む^{ミヤ}た^{ミヤ}乃^{ミヤ}く^{ミヤ}さ^{ミヤ}る^{ミヤ}。
大^{ミヤ}乃^{ミヤ}神^{ミヤ}も^{ミヤ}や^{ミヤ}ち^{ミヤ}く^{ミヤ}。二^{ミヤ}乃^{ミヤ}神^{ミヤ}乃^{ミヤ}の^{ミヤ}と^{ミヤ}小^{ミヤ}乃^{ミヤ}神^{ミヤ}乃^{ミヤ}の^{ミヤ}と^{ミヤ}神^{ミヤ}乃^{ミヤ}の^{ミヤ}と^{ミヤ}神^{ミヤ}乃^{ミヤ}の^{ミヤ}

めざし一ふんあなりきり。の漢水乃ハ乃なりきり
東湖乃十の境も。涼州一味りうちふおのいあえり
まは様よ名といふひとなり。まは様よいりゆり
まなり。

いあえりゆり。いあえりゆり。いあえりゆり。

五老井記

許六

○靈泉あり。水乃きりゆり。後よりあなりきり。平
尺乃盆池。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。
名はく別墅といふ。あえり。あえり。あえり。あえり。あえり。あえり。
許六。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。

驛が系石なり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。
休暇といふ。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。
代の系。湯を坂よりいりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。
いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。
乃いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。
泉といふ。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。
四時。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。
泉をいりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。
西より人乃柳の陰も。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。
大いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。
乃いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。いりきり。

鹿嶋紀行
 五老井
 許六選

○紀行類

鹿嶋紀行

芭蕉

〇清う貞室。次う新浦の月見より。松ヶや。月々
 三み。松中細えといひまじ。ねまのむしもなひ
 一ふき。ふ。け。秋。鹿嶋は乃月。ふ。ふ。と。お。い。ま。す
 あ。り。は。か。ふ。人。ふ。き。わ。い。わ。は。涼。室。乃。と。む。き。と。い。ふ。中
 新。浦。傍。ろ。か。し。も。の。下。く。なる。星。の。あ。ふ。こ。衣。新。家。を
 え。ら。と。お。う。き。出。し。お。き。像。と。厨。子。は。あ。り。次。入。く。高。井
 子。せ。き。ふ。松。林。成。な。う。う。く。無。山。乃。園。も。さ。い。ふ。と。お。い。ま。す
 あ。め。つ。ら。は。徒。然。い。て。出。ぬ。今。い。わ。は。傳。も。あ。ら。む。

みかゝくわ。

杵神おゝ詣くわ神。ばら川のうゝ忽ケチニキとひまゝく
うゝをるわう一うゝよ源おとゝつゝな。

奉納二句

「海苔もわんウナギの塵乃いゝ川カハ 男

「松隈川と隔くゝ墨乃神 男

夫乃若くゝ入まゝ。灯油かやゝ。き園乃ひゝさ
お神を那くゝかきわたり

「穴落ゝん神おそわゝ一稚子夢 男

花宮ゝ詣くゝ。中社ちゝん松乃ひゝ。まふお素スサノ河川
まゝゝゝ。神所常おゝあんゝゝゝゝ。てゝわ石の上ゝカシラ要

てあゝな。はゝるんゝゝもまゝゝゝありて又ゝも
衆乃松乃カゝゝゝゝゝゝ。小神の膚ハダゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝまゝゝゝゝん此せゝ神。あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
さゝゝゝゝゝゝゝゝ。又奉納。

「百八乃なゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 男

「今そ志ゝ月日の花も祓さゝゝ 男

つゝゝゝゝぬ。右跡もゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝゝ。二見のゝもゆゝゝ神ど。けゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ちゝゝゝゝゝゝゝゝ。例乃ちまの神ゝ海をゝてゝゝゝ。

區

Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of the character '區' (Qū) from the left page. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

ア
ラ
ハ
シ
ヲ
シ
ヨ
曠野集序

芭蕉
猿蓑序

其角

宴ユニ榊スル後リ園ウ序コ

支考

遊江介景序

千那

四一絶セツ
文ブン章シヤウ序

李由

要文、集序

許六

魚樓繪合序

許六

麻生後序

許六

銀河序

芭蕉

番椒序

野坡

○序類

曠野集序

五老井 許六選

芭蕉

一尾陽をまた。僵木堂主人荷うて古集を編て名をあらわ
 して。何ゆへに名あるををきくも。さうさふらひを
 さいへ此所は旅寐をむむく。乃虫控とあらわ
 せ乃目いふ。そ目げおほひおて。乃の目とせよわ
 やうもむむや衣更衣泳し乃をわきき。柳候の沸と
 あうとい。膝をぬか。おのうさま。なる内。はうき。て柳
 實とそ。かよもの。は。は。や。新。乃。い。ん。さ。ん
 つ。あ。う。か。ひ。ふ。さ。い。て。姫。ゆ。わ。乃。な。め。も。つ。は。

宴柳花園序

支考

○世にあふ人ありて。後ち雅錦集はその一ふ所々。樂つきて。
ほそおひじよのし。山梅樹下はあふとねこゝろに
ぶつか。世よりやむもかきぬべー。いぬ川乃さうじ
けりやうともおとん。天遊おもとて。むく。新人もいつる
されば柳は空をの何う。之西乃友をあらめて。何さぶ
る目あるを頼ふ。剛乃一字を翻して。志けのなりぬ時を
候な。やう。さめらさう。海よ並て。う新河の心よ
ほひけり。大木の影をなんやけり。むび。い日よまを待た
は中。あふびく。今酒のすむと候。さるにん。

わをも。死にはふ奈惜といふ。今う。罰金。金谷の酒は。け
つ。む。能。港。よ。葉。入。事。候。何。れ。さ。よ。わ。と。い。ふ。さ。お。し。て。
つ。と。然。と。い。ふ。し。と。さ。い。み。秋。を。れ。

近江八景序

千那

○近江八景々。湖水の絶景をあつじ。びんが堅田下わさ井
石山よはるる。雲は幸晴をみはし。勢国大福と
合と。謙湘乃八景よなましくへ。ハの云を定む。うたうそ
永保す。み。仲雄の月よ来りて。近江乃政家云。石
山寺よあそび。つ。時。う。はてけ。景を詠む。う。く。家。お
ふ。く。の。八。景。法。寺。新。山。新。十。境。歌。を。は。と。う。り。な。し。

きういふ流もくおもひ流大うかがづり幾つと路乃益
旗かづつてゐて貧乏橋の口終うつひみされとなを。
不食甘茶お付ふ品これとそれ。おほくハ奴僕豆腐の
比お茶のうとをふけるを。茶も乃最ととやらもかくハ
どあるハ小中宿のぬるはよ。乃のちお小番。よ。こ。よ。
あられく。海もあらとといひみのみり。張。あやと。の
あつといひ。ばや。た。ら。う。ぶ。よ。も。あ。ら。う。ま。い。今ハ
と。人。こ。よ。い。世。と。さ。ら。う。つ。ひ。ば。い。よ。い。お。い。と。な。れ。ど。い。う。
を。か。い。と。同。さ。る。は。く。う。と。と。と。序。と。と。う。い。ふ。
石をを終へて。根ををやめる。概

石をを終へて。根ををやめる。概

